

コウノトリ湿地ネットニュースレター

パタパタ

No.

16

コウノトリ湿地ネット

🏠 豊岡市城崎町今津 1362
☎ 0796-20-8560
✉ toshima8560@iris.eonet.ne.jp
🌐 <http://wac-s.net>



目次

今年もコウノトリと共に歩みます.....	1
戸島湿地にて.....	4
重箱の隅のコウノトリ.....	5
コウノトリ追っ掛けたい番外編.....	8
戸島湿地便り.....	10
編集後記.....	12



(財)国際ソロプチミスト日本財団「環境貢献賞」を受賞しました

当会のコウトリ野生復帰に係る水辺(餌場)づくり等が評価されたものです。授賞式が昨年11月16日に熊本市で行われ、佐竹代表が出席し、謝辞を述べました。

※写真は、11月24日、副賞を持参していただいたソロプチミスト但馬の方々です。



『メダカを守ろう!』

10月23日(日曜日)の午後、近畿大学農学部細谷和海先生をお招きして『近畿大学但馬支部地域貢献事業』の一環としてカダヤシの駆除がおこなわれました。

まずは、細谷先生から『メダカを守ろう!』と題してメダカの生息状況と保護についてお話を伺い、現場でカダヤシの駆除をしました。メダカとカダヤシの区別の仕方を教えていただきます。

座学だけでは得られない、学びの時間となりました。



出石町森山に巣塔が建てられました

12月1日「出石城下町を生かす会」の環境部会の活動として、出石町森山の山際に巣塔が建てられました。コウトリの住みやすい環境を作るため、松を植える活動を続け、さらに今回巣塔を建てられました。コウトリにとって巣作りに適した場所を、と検討された結果、山際の眼下に田んぼを見渡せるこの場所になりました。

近くのたんぼにはコウトリたちが頻りに訪れています。来春を楽しみに待ちましよう。

表紙の写真は12月15日、祥雲寺たんぼでのコウトリたちの様子です。(撮影 大平さん)

今年もコウノリと共に歩みます

コウノリ湿地ネット代表 佐竹節夫

新年、明けましておめでとうございます。

なんだか、世界中が目まぐるしく動いていて、心が落ち着く暇がないような感じですが、慌てず騒がず、どっしりといきたいですね。

●グチ始め●

当会は5年目の春を迎えます。この間、湿地(餌場)づくりに取り組んだり野生復帰に関する発言・発信において、少しは市民権を得たかなと自負しています。会員数も正会員が77名、賛助会員が175名、21社と大所帯になりました。でも、実動部隊はというとほんの一握りで、相変わらずの弱小グループです。そりゃあ、コウノリにこだわり続け、コウノリの環境づくりを最優先して取り組む輩なんて、いつの時代でもマイノリティーだと自覚してはいますけど、一緒に汗をかく仲間がもう少しいればなあと思います。会員、非会員を問いません。時間の多寡も問いません。作業、調査、イベントのときなど、顔を見せてください。よろしく願います。

●改めて当会の基本姿勢を述べます●

目指すものは、生態系の頂点に立つコウノリでも暮らせる社会になること。耳にタコですが、人と自然が共生する社会を実現することです。「社会づくり」なので、取り組みは総合的に展開しなければなりません。「総合」とは、まさに豊岡で展開されているもので、全体計画のもとに行政、研究者、市民、企業、NPOなど多様な主体が参画する行動形態です。当会は、その中において「市民の立場でコウノリにこだわり、コウノリが実際に生息できるよう餌場(湿地)づくりを具体的にを行う」グループです。これは今後もブレません。ややもすると、私たちの発言や行動が周囲に波風を立てることもあります。それは閉そく状況を打破したいがためですので、ご理解ください。目指すものは「共生」であり、「安定した社会」を求めています。

というわけで、今年も「安定」を求めて「挑戦」し続けます。挑戦という言葉がイヤな方は、出石川での農婦と牛とコウノリの写真を思い描いていただき、あの風景(の中身)の世界に「前進」する、と考えてください。

そのためには、2つのことが必要です。1つは、コウノリをはじめとする生きものへの愛情です。宇根豊さん風に言えば、「まなざしを注ぐ」ことです。気がつくについ人間中心に見てしまったり、都合が悪くなると目をそらしてしまうので、簡単なようで案外と根性が要ります。私たちは、共生社会を築くにはコウノリをシンボルに掲げるのが最も効果的だと捉えています。それには感傷的と言われようがシンボル自身に寄り添わないと何も本物にならないと思っています。コウノリファン? 少しだけど、違うんです。

2つ目はもちろん実践です。当会は評論家を嫌います。かと言って、自分の行動に自信満々な方にも距離感を感じます。こんなご時世ですもの、うまくいくことは極めて稀です。少し前進しても、長続きすることはないと考えた方が無難です。ですから、野生復帰には状況は日々変わっていくことを常に意識しておかねばなりません。例えば人工巣塔。ここが良かれと建てても、営巣するか否かは周囲の自然環境の良し悪しだけで決まるものではありません。ペア自身や他の個体の動向、人間の行動など様々な要素が絡まり、変化しながら関係して、「昨年と同様に」が通用しません。

そこで、不可欠なものが試行と管理です。目標像到達への仮説を立て、試行し、検証して修正する。どの場面でも、これを繰り返す行いが野生復帰には最重要です。当会の実践例から言えば、コウノリが舞

い降りた場所を調べる→こうすればより良好な餌場になるだろうと仮説を立てる→その方法で湿地づくりにかかる→生物の変化とコウノリの採餌状況をモニタリングする→うまくいかなかった点を修正するという具合です。つまりは、アダプティブマネジメントということですが、私たちは横文字でなく「見直し」という言葉を用いたいと思います。失敗は前進です。うまくいなくて悩む人が当会の同士であり仲間なんだと感じます。

ところで、悩む人は何に対してうまくいかないのでしょうか？ コウノリの保護策で？ 自然や生物が思い通りにいかないのか？ 実はそれらは小さな事象で、大きな比重は対人関係のほうです。小さな水溜り1つをつくるにしても、その地権者がおられ、地域があり、その上に行政との折衝が要るかもしれません。お金も工面しなければなりません。また、個人行動ではほとんど効果が生じません。組織化まで行かなくても、協力、協働、連携、ネットワークなどが必要でしょう。相手はみんな人間なので、人間関係の成否がコウノリの環境を左右するのです。その分、当会はまだ若輩者です。(反省^^)

●コウノリの生息地拡大へ●

昨年末の12月10日にコウノリの郷公園からコウノリ1つがい福井県越前市に移送されました。ケージ内で繁殖させ、成育した個体を放鳥させるもので、国内でいくつかの地域個体群形成に向けた大きな一歩でした。千葉県野田市でも多摩動物公園の個体によって同様な計画があると聞いていますし、お隣の京丹後市久美浜町では戸島湿地と野上で巣立ちした雌雄が飛来しており、年末にはラブラブ関係との報が入っています。コウノリ野生復帰は、確実に新たな段階に入りました。

これらの状況を受け、今後に対して、当会のなすべきことは次のようなことだと考えています。

(1)市民レベルでの情報の共有

2010年10月に開催した「コウノリの生息地を全国に拡大する市民かいぎ」で「野生復帰は全国レベルのテーマとなってきた」ことを確認し合い、「第4回コウノリ未来・国際かいぎ」の場で①コウノリが舞い降りる湿地をつくり、育てる ②生息地を広げるネットワークをつくることを宣言しました。

その後は、当会のパワー不足もあり活発とは言えませんが、コウノリの郷公園や行政との連携によって各地の舞い降り情報を収集して、当会HPで発信しています。まだの方は、ぜひご覧ください。

(2)湿地づくりの失敗・成功例の発信

権限と力量のない市民グループができることと言ったら、湿地(餌場)づくりの経験談をありのまま話すことです。できるだけ冊子などにまとめて発信を続けますので、必要あればご利用ください。また、コウノリのことをさらにさらに知らなければなりません。今年はこのことに本格的に取り組むと決意している会員がいます。乞うご期待！

●給餌について●

市内で暮らす独身者は、今後も相当数が市外に出るでしょうから、本家・豊岡としては、給餌の考え方を整理しておかねばなりません。周知のとおり、コウノリの郷公園では西公開ゾーンと百合地ペアに対して通年給餌されていますし、当会は戸島湿地において餌生物がいなくなる冬期と繁殖期に限定して給餌しています。前者は諸々の方法を検討されていますが、結論が出ていません。当会は、少なくとも今シーズンは従来どおり給餌することを決定し、12月中旬からペアの動向を見ながら給餌しています。

給餌はしないに越したことはなく、採餌環境再生の進捗と反比例させながら減少させるべき(箕輪・本紙第2号)ですが、①繁殖ペアは冬期間も巣の周辺から移動しないので、積雪時の対策が必要なこと ②基礎代謝量、とくに繁殖前と餌生物が激減する冬期に要するカロリーが把握できていないこと、等の課題を早急に整理する必要があります。

また、周辺での鳥インフルエンザ発生時の対策も緊急課題です。発生すれば飼育個体への感染防止上、郷公園内での給餌を中止することは当然の措置として理解できます。しかし、その場合は園外での代替措置が必要です。当会は、昨年はその措置が取られなかったがために、突然に餌をもらえなくなったコウノリは雪の中で体力を消耗し、ついに1羽が死亡したと認識しています。残念ながら今シーズンの方針が未決定(12/22 現在)ですので、当会は鳥インフル発生時にはククヒ湿地での給餌を実施する予定です。

●円山川下流域と周辺の田んぼをラムサール条約登録湿地へ●

今春には円山川下流域を条約登録する要件が整い、7月のCOP11で認定証が公布されそうな案配になってきました。範囲は、野上の豊岡大橋から河口までの円山川・楽々浦湾・桃島池の水面、戸島湿地、戸島・気比・畑上・田結地区の田んぼで、面積にして約575haです。主にコウノリ戸島ペアのテリトリーが対象地となっていますので、当会にとってもうれしい限りです。

条約登録は、「国際的に重要な湿地」に認定されることに加え、次のような意義があると思っています。

① 「再生」が大きな要素になっていること

対象区域は、元々が水辺生態系や景観、住民生活との関わりから見ても魅力的で重要湿地ではありませんでしたが、この数年の間で水辺再生が進んでレベルアップしています。しかも現在進行形で、コウノリの定着と共に登録された後もさらに質が高まるでしょう。「再生」が評価されるということは、「人々の取り組み」が国際的に評価されると同意語です。うれしいと同時に、責任も感じるものです。

② 初の「河川」登録であり、担保法令に大きな前進があったこと

国際条約への登録には、将来にわたり改変されないという証を国内法で担保することが要されています。対象地を国指定鳥獣保護区特別保護地区に指定することがそれです。

今回、河川がメインとなる初のケースであることから、環境省と国交省が協議され、河川区域は河川法も適用することで特別保護地区までしなくても普通保護地区で了とされるに至りました。両省の英断に感謝です。

③ 対象地元地区の登録賛成はうれしかったです

上述のとおり、条約登録地は鳥獣保護区に指定されます。河川区域以外は主に田んぼであり、そこでは住民の方がシカ、イノシシによる農作物被害で苦慮されています。とくにシカの数は尋常ではなく、防止策も限界を超えています。そこに鳥獣保護区とは。

猛反発があるのが普通ですが、折衝された市の担当者によれば、4地区とも真摯な議論の上で賛意表明されたとか。コウノリ野生復帰に寄せる思いが少しでも好影響しているとしたら、うれしい限りです。(他の4地区は賛意が得られませんでした)

円山川下流域と周辺の田んぼがラムサール条約に登録されることは、コウノリ野生復帰にとっても大きな進展です。でも同時に、登録への過程で問題も感じました。市民が議論に参画できる場がないので、盛り上がりようがないのです。行政内で淡々と法的処理されているという印象を受けますので、次回からはもっと平場でワイワイやるようになってほしいと願っています。

そんなこんなと言っているうちに、7月にルーマニア・ブカレスト市で開催されるラムサール条約締約国会議COP11へ順調に到達するものと確信しています。湿地再生の一里塚と捉え、登録を機により地道かつ賑やかにやっつけていきましょう。もちろん、ルーマニアへは当会も駆け付けますよ。参加者募集中です。

すみません。あといくつかの項目があるのに、紙面が足りなくなりました。この続きは次号にします。


 戸島湿地にて

(有限会社 晃 渡邊 龍太郎)

緊急雇用機会創出事業にて4月より「戸島湿地」に派遣されて早や9ヶ月が経ちました。

当初、湿地ネットの佐竹代表より「コウノリ」と戯れないかと誘われてやってきた戸島湿地でしたが、主に「草」と戯れていました。

昨年、体調を崩して前職を辞し自宅で休養していたので、最初は慣れない作業で体力的にもきつく戸惑っていましたが、事務局の森さんを始め様々な方々の暖かいご支援のおかげで、なんとか勤め上げることが出来ました。



☀️湿地内の草を刈り、集め、運ぶ。山の竹や木を切り、枝を払い、積上げる。一見、何の変哲もなく単純な作業ですが、やってみるとその都度変化があり奥の深い作業です。何より、草を刈った所がきれいになり、竹を切った所がすっきりすると気持ちも良く、体調も次第に良くなってきました。湿地には不思議な力があります。

☀️お日様の光を全身に浴びること、四季折々の風のおいを感じることに、汗を流し体を動かすこと、自然の中に身を置いて自然と親しむことは、現代のあくせくとした日常と対比すると、すごく贅沢な時間を過ごせたのではないかと思います。



♥️来年の4月より出石の鳥居にて地域生活支援活動をしている「暮らしの学校のーら」にてスタッフとして常勤することになります。今年も週3日、指導員として行っておりましたが、自閉症であったり、社会になじめず引きこもったりしている若者を農業や生活における作業を通して元気になってもらおう、社会とつながってもらおうという活動をしています。生物多様性と人間多様性、コウノリのいる豊岡市だから出来ることをみんなで考えてやっていこうと思います。



🍀ひとつ残念なことに1年近く戸島湿地にしながら、湿地ネットの方々やピオトープをされている各地の方々となかなか交流を深めることが出来ませんでした。「暮らしの学校のーら」でもコウノリ(=自然豊かな郷土)に関わって行きたいと思いますので、ご協力、ご指導を頂けましたらありがたいです。今後ともよろしくお願ひします。

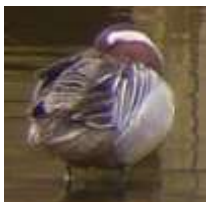
重箱の隅のコウノトリ学（最終回） ～コウノトリの色々な行動～

（コウノトリの郷公園獣医師 三橋陽子）

コウノトリを観察していて、その魅力に引き込まれる方が沢山います。それはどうしてでしょう？
妙に人間くさい行動や大きさから「目線が」近くなり、親近感を抱くのも1つの理由かも知れません。
でも、コウノトリから「動物を見る」を始めた方は、意外と行動の基本をご存じないかも？とお話して思
うことがあります。そこで、郷公園の西公開ケージでの観察を中心に、いくつか紹介したいと思います。

まず、本当に基本となる行動です。

コウノトリがどのように休息するか、ご存じですか？ 実は他の鳥類とは大きく違っています。小鳥を飼ったことがある方はご存じと思いますが、鳥は頭を後ろに向けて、嘴を翼の中にうずめて休むスタイルが多いです（写真はシマアジ）。首の長いハクチョウも、セキセイインコもこのようにして休みます。



しかしコウノトリは胸の羽毛を膨らませて、その中に嘴をうずめて休みます。ちょっとカワイいですよね。

ちなみに野生動物は、休むと言ってももうつらうつらするだけです。鳥はコウノトリを含め、片脚で立つ事が多いです。人間の感覚だと、きつそうなのですけどね。



コウノトリは安全であると判断した場所では、立たずに休むこともあります。生態系の上位の存在で余裕なのでしょうか？フェンスの内側も外敵がこない安全域ですのでよく座っていて、人間で言う踵で座っているので、踵座り（かかとすわり）と私たちは呼んでいます。さらに伏せてしまうこともあります。



ところで、右の写真が何をしているかわかります

か？

首を反らしていますが、クラッタリングではありません。これは頭を背中にこすりつけているのです。見極めは喉の赤い袋が広がっているか、いないかです。



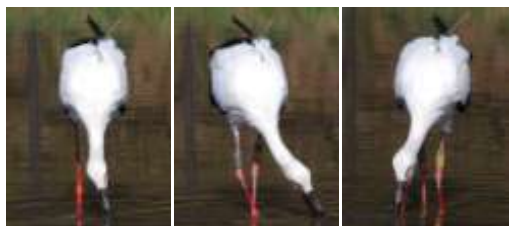
クラッタリングの最長のパターンはこうなっています。①嘴を反らせて喉袋も膨らませる。②嘴を打ち鳴らしながら、首を持ち上げて、さらに横にしてい。③嘴を打ち鳴らしながら、首を左右に振る（写真左から①②③）。

時と場合によって、①、②だけだったり、嘴を数回打ち鳴らすだけの時もあります。ペアが行うときは、写真のように綺麗に同調して行う事が多いようです。



クラッタリングのパターンが違うのも、感情を表現しているのしょうから、当たり前ですね。何を言いたいのかは、本人に聞いてみないとわかりませんが…

餌を探して捕らえるときのパターンも、いくつかあるようです。①獲物を直接見て狙って捕まえる。②口を半開きにして水中を突きまわって、嘴にあたった獲物を捕る。③嘴を半開きにして水中に突っ込んだまま左右に振り、嘴にあたった獲物を捕る（写真は③）。



特に②の方法が、意味もなく嘴を突っ込んで
いるように見えるので、餌捕り下手説の原因にな
っているような……!?

捕まえた獲物を飲み込む時の行動、これが意
外と認識されていなかったりします。実はコウノ
リの舌は短くて、嚙下するのに食べ物を喉の奥
に運ぶ事は出来ません。そこで、食べ物を一度
空中に放して、喉の奥に放り込むようにしてい
ます。よく下を突いているから何か食べていると勘
違いされますが、この「飲む」行動がなければ、
食べたことにはなりません。



水を飲む行動も、意外と知られていなかったり
します。鳥が水を飲むには色々なパターンがあ



(舟状の下嘴、ちなみに
これは「あくび」です)

って、水に嘴をつっこ
んでごくごく飲む場合もあ
りますが、コウノリは舟
のようになった下嘴で、
水をすくい取って飲みま
す。



こうして改めて静止画で見ると、喉袋が水で
膨らんでいるのがわかりま
すね。

天気の良い日には、水
浴びするコウノリの姿も見
られます。かなりダイナミ
ックにバチャバチャと浴び
るので、川の浅瀬でしてい
るときなどは、「コウノリがお



ぼれているみたいなのですが?」と、問い合わせ
が来てしまうほどです。さらに、行水のように水に
浸かってじっとしていることもあります。

濡れた羽毛は、翼を垂らし気味にして乾かし
ています(写真はなし)。実はこの姿は、鳥類一
般では元気のない姿と言われているので、こ
こでも心配の声を頂くことがあります。

西公開ケージで見えて楽しい事の一つに、
個体間関係があります。コウノリはツルやハク
チョウのように(例えば誰かが見張り役をする
とか)組織だった群れ行動はあまりしないよう
ですが、複数いるとそれなりに力関係を確認し合
って規律をつくっているように見えます。特に雄
同士が向かい合うと、しょっちゅう小競り合
いをしています。

また、コウノリは子育てを見ていると、と
ても愛情深い穏やかな鳥に見えますが、結構
きつい性格をしていて、本気の喧嘩になると、
あの嘴です、怪我で済まないことも
あります。機嫌が悪い時、
肩を張って歩く姿を見ると、
いかにも喧嘩しに行きそ
うだなと感じます。



小競り合い程度の軽い威
嚇の時は、翼を半開きに
し、首から上の羽毛を
特に膨らませて向かい
合います。膨らんだ羽
毛で後頭部がとがって
見えることもあります。
喧嘩の時、体をより大
きく見せようとする
のは、動物の喧嘩の時
はよくあること
ですので、コウノリも
そうなのでしょう。



ただ、勝敗はまだよくわかりません。彼らの最
大の武器である嘴を抑えることも、勝敗を決める
一つ(もちろん抑えた方が勝ち?)のようですが、
違うときもあります。



目線が上になる事も重要な事のようにです。小競り合いの一例を紹介します。見合って見合って～、後ろ先手、手前も負けじと首を伸ばす！



両者精一杯首をのばし～、たけど・・・？



どうやら、引き分けだったようです。はっきりと勝敗が決まると、負けた方が逃げることもあります。

個体間関係は小競り合いばかりではありません。中にはこのように微笑ましい羽繕いし合うラブラブ状態が見られることも。

複数いる場合は、是非個体間関係も注目して下さい。面白いと思います。



ちょっと面白い話

トノサマガエルの冬眠

10月上旬竹野町坊岡地区での発掘作業中、昨秋山の表土を20cmめくったままの場所を再度数センチ掘り下げると、10匹近いトノサマガエルが土の中から出てきました。カエルはすでに冬眠の準備に入っているようで土から出されても動きは鈍く、すぐに捕まえられる状態でした。



トノサマガエルは中くらいから大きいもの、また丸々太ったもの少し丸くなったものといろいろでしたが、アカガエルは一匹も含まれていませんでした。

カエルが見つかった場所は標高71m付近で、山裾にある最も近い休耕田からでも水平距離約60m高さ19mもありました。

なぜトノサマガエルはそんな山の中で冬眠するのでしょうか。ここからは素人の勝手な想像です。トノサマガエルは田んぼが始まるまでゆっくり寝ていればいいので水につからない、しかも天敵のコウノトリやサギなどが思いつきもしない山の中で冬眠をしているのではないのでしょうか。今回1匹も見つからなかったアカガエルたちは雪解けが始まるとすぐに産卵しなければならないために田んぼに近い場所で冬眠をしているのではないのでしょうか。

今回のトノサマガエルは、私にとって自然の面白さをまたひとつ教えてくれた楽しい体験でした。

(宮村 良雄)



コウノトリ追っ掛けたい♪番外紀行

(湿地ネット会員 西村英子)

平成23年12月10日土曜日、有志4人で福井県越前市へ行ってきました。早朝から出かけ、兵庫県から福井県に貸与される、ペアのコウノトリの受け渡し式を見守ってきました。

福井県知事、越前市長をはじめ、兵庫県の関係者やコウノトリの郷公園からも園長、副園長が参列しての式の後、2羽が移送用の箱から出されました。小雨模様の寒い日でしたが、両県の飼育担当者に見守られながらトラックの長旅をした2羽は、羽も白く美しく元気そうで、ひと安心でした。



ケージまでは距離があり、道に近い方向は周囲によしずを巡らせてあるため、見学者は遠くから眺めるのですが、時折、羽ばたく様子を眺めては、「オーッ」と歓声が上がっていました。

新しい住まいに
落ち着いた2羽

雨の中コウノトリ
を出迎える皆さん



14歳のオスと13歳のメスは今までに11羽のヒナを育てており、その内、J0389, J0391, J0400, J0002の4羽は放鳥されています。次の繁殖シーズンも、無事にヒナを育て上げてほしいものです。そのヒナたちが福井の空をゆったりと旋回する姿を、是非、多くの人たちにみてもらいたい。

コウノトリには福井県も兵庫県も境目はありません。日本全国を好きに飛び回ってくれていいのです。海外までも行っていい。

豊岡の市民は、悠然と舞うコウノトリを見かけると「今日はいいことがありそうだ」と言います。全国の多くの人たちに、そんな気持ちで見守って頂けたらと思います。

一路J0016に会いに

さて、午後は若狭町へ向かい、「鳥羽川水系を守る会」の方々に会いました。この地域にはJ0016が滞在しており、熱心に観察を続けている方たちです。もともとは、県の助成を受けてビオトープ作りを始めたところ、コウノトリが来てくれて、俄然おもしろくなった、との感想がなんとも愉快です。

鳥羽地区の公民館で目撃情報を集約し、それを地図に落して、採餌やねぐらでの利用の多い場所や、時間帯による居場所までもおおよそ把握しておられます。さらに、写真展を開いて、地域の人たちの関心を呼んでいます。

左から電柱に止まる JOO16、蓮池の中の足跡、蓮池



私たちの到着後、早速、居場所へ案内して頂きました。集落内の電柱上にいましたが、すぐ下の道路をぞろぞろと大勢で歩いて、いっこうに気にする様子はありません。聞けば田んぼでもすぐ近くで観察できるし、自分から近づいても来るとのことで、個体差、個体の特徴なのでしょうが、皆さんは大変可愛く思っておられます。

昨年12月、雪の季節に54日間滞在した時は、餌はあるのかと随分心配されたそうですが、その時の観察で、水が湧き出し、雪に覆われることのない場所があることに気付いたそうです。この地域は昔は沼地で、湿気が強く霧もよく出るとのこと。やはり豊岡と共通点がありました。餌は主にザリガニを食べていたとか。この観察眼こそが市民レベルの応援団の面白さでしょう。

たくさんの人たちが楽しみ、興味を持って参加し、コウノトリを見守り続けてくれますように。楽しくなくっちゃボランティアじゃない！！ってね。

2011年11月22日～
コウノトリ「えっちゃん」飛来地点



電柱の次に飛んで行った田んぼ、豊岡と環境が似ているように思いました。JOO16が何処にいるか分りますか？



鳥羽川水系を守る会の皆さんと



ハチゴロウの戸島湿地便り(10~12月編)

(戸島湿地管理棟 森 薫)

~コウノリの様子~

戸島ペア(J0294とJ0391)は、暑い間には湿地では見かけませんでしたが、10月2日から巣塔に止まり始め、20日からは時々ねぐら入りをして、27日には交尾を確認しました。交尾を確認したのは、赤石のお母さん(J0384)がたびたび巣塔に止ま



ろうとして追い払っているなかでのことで「私たちは今年も仲良しよ」とのメッセージのようでした。不思議とそれ以来、赤石のお母さんは巣塔には近づかなくなりました。



2010年は、10月22日巣塔に止まり25日からねぐら入りをしています。

10月から自分たちのテリトリーを意識しだすのが恒例となっています。1月~2月に交尾を繰り返して巣作りし、3月には産卵、4月に孵化となることでしょう。

~湿地・管理棟の様子~

10月~11月の間に1624名の方が来館され、その中の249名の方(近畿大学バスバスターズ、近畿大学校友会但馬支部、トヨタ部品兵庫共販株式会社のCSR部、株式会社川嶋建設、京セラミタ株式会社、兵庫県立尼崎小田高等学校、復建調査設計株式会社)がボランティア作業をしてくださりました。

畦を完成させる作業をされた方が、いろんなところでのボランティア作業と比較して「ここでの作業が一番達成感がある」と言われていたことが印象に残っています。引き続き来ていただけるように、現場でのスタッフの確保など検討を重ねていきたいと思っています。

湿地では、高い草を増やしてキシユウスズメヒエ対策をしましたが、今度は一気にヨシ原となってしまいました。雑草対策とコウノリの採餌環境を整えることはバランスが難しく苦心しています。植生管理がしやすいように木道を設置しました。

管理棟では、JICA・行政・市民団体の視察や、ジオパークツアー、小学生の環境学習と賑わいました。



- ☆トヨタ部品兵庫共販(株)
- ☆京セラミタ(株)
- ☆兵庫県立尼崎小田高校
- ☆子供たちの木道渡り初め
- ☆株式会社川嶋建設
- (写真左上から時計回りに)



～国際ソープチミスト日本財団環境貢献賞を受賞しました～

11月24日、国際ソープチミスト但馬の皆様が、国際ソープチミスト日本財団環境貢献賞の賞金を持参してくださいました。絶滅したコウノリの保護のための湿地づくり、水辺の再生にとりくんでいることが認められ、国際ソープチミスト但馬から推薦をいただき受賞することが出来ました。当会が発足して間もない頃にも、国際ソープチミスト但馬から寄付金が寄せられ、今日までの活動の基礎を創っていただいたと思っています。感謝の気持ちを糧として、これからも頑張っていきます。

～コウノリ一斉調査で44羽のコウノリを確認しました～

管理棟では、目撃情報からコウノリの個体確認表を作っています。この表は、8月の一斉調査の前に、コウノリ郷公園の大迫先生から教えて頂いた表で、誰が見ても分かりやすいようにと、管理棟に来られる方のアドバイスをを受けて親子関係や、巣立った巣塔、性別を記入したものです。11月27日の一斉調査の後、管理棟で集計していて次々と埋まっていく表に感激しました。午前7時から10時30分までの約3時間で46羽中、42羽が確認出来たことは大きな『市民力』です。あとの4羽のうち2羽は夕方までに確認され、残りの2羽も後日確認しました。11月29日には全個体を確認することができ、全てのコウノリを見つけられたことは、季節も関係しているのですが、メンバーの日々の観察の賜物で、コウノリへの愛情の成果だと思えます。



初回の2011年2月19日は、18名の参加で30羽。2回目の8月6日は25名の参加で30羽でした。今回は15名の参加者で、当会以外の方も参加くださり、市内でのコウノリの行動範囲を熟知されている人や、個体識別を研鑽されている人から大きな力をいただきました。仲間と共にコウノリを探し、見つけられたときの喜びは何とも言えません。毎日送られてくる情報にそのときの喜びをふつふつと思い出し、観察者を労い、宮村会員が集計されるデータから個体確認表を埋める作業は、私の楽しい日課となっています。

コウノリ湿地ネット入会のご案内

湿地ネットでは、「正会員」「賛助会員」となり、活動を支えてくださる方を募っています。

※正会員 入会金2000円、年会費2000円（積極的に、会の活動を支えてくださる方）

※賛助員会 年会費2000円（年4回ニュースレターをお送りします。その他自由に活動にご参加ください）

会の趣旨にご賛同いただける方は、ぜひご入会をお願いいたします。

振込先

郵便振替 加入者名 NPOコウノリ湿地ネット
口座番号 00900-0-194128

※ 継続会員の方で今年度の振込みがまだの方は、会費の納入をお願いします。

コウノトリ湿地ネット賛助会員名簿（新規入会）

個人会員

豊岡市 中田恵子

(2011年10月1日～2011年12月25日)

ありがとうございました。これからもよろしくお願いたします。

思うこと

(コウノトリ湿地ネット代表 佐竹節夫)

年末の26日、保護増殖センターで飼育されていたコウノトリのメスがひっそりと亡くなりました。「鹿児島」と名付けられていた彼女は、1971年3月に鹿児島県徳之島で保護され、翌年11月にこの施設に入ってきましたので、実に40年間を過ごしたものです。

同時期に同様に福井県の現越前市から入ってきたメスが「武生」です。こちらは、折れたクチバシで苦勞しながらも女房思いの伴侶に恵まれて子孫も残すというドラマチックな人(鳥)生でした(2005年死亡)。しかも、彼女への思いが住民の方に今も生きていて、今春にはこの地で野生復帰が成るかもしれません。

一方の「鹿児島」はほとんど目立たず、私自身も関心の目を向けていませんでした。繁殖までは無理でしたが、老いてからペアを形成し、仮親として子育てもしていたのに…。

1989年に豊岡での飼育25年目にして初の飼育下繁殖を成し遂げ、野生復帰への口火を切ってくれた大功勞者「青」「黄」ペア。彼らも、今では注目もされず、センターで静かに暮らしています。飼育下で暮らす彼らの一生は、みんな人間の動向によって左右されてしまいます。飼育部外者の私たちは、せめてエールだけは送り続けたいと思います。



12月10日 越前市でのコウノトリ受渡式にて

編集後記

息子が結婚し、お嫁さんと一緒に天使がひとりやって来た。春にはもうひとりやって来る。

こんなに早く孫に恵まれるとは…幸せ♥

天使に心を奪われないように、仕事もしっかり頑張ります。

(森 薫)

この12月、但馬は雨の日が多かった。いや、雨の日ばかりだった。毎日、朝、空の具合を見てがっかりする。時々晴れてきて、洗濯ものを外に出すと、すぐ、雨模様になる。もういやだ!! 青空を出してくれ!! さらにクリスマスからは雪だ。私は冬でも天気の良い九州育ちなので、気が狂いそうです。(宮村)